

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 11 月 29 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500164		
法人名	医療法人社団 愛心会		
事業所名	グループホーム ジューンベリーの家		
所在地	東広島市河内町入野2139-1 (電話) (082) 420-7282		
自己評価作成日	令和4年10月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492500164-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年11月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「認知症になってもその人らしく穏やかに、明るくその人の人生を生き生きと過ごしていただくこと」を理念に掲げ、利用者様が「ここで生活してよかった」と少しでも思っただけのように、また多くの笑顔がみられたらと言う思いで支援を行っています。利用者様の訴えを傾聴し会話の中から思いに気づけていけるように努力しています。施設の庭には畑や花壇があり、利用者様と花や野菜を植え、昔取った杵柄を發揮していただいています。日常生活において、テーブルを拭いて頂いたり、洗濯物干しや洗濯物たたみ等一緒に行っています。就寝前にフットマッサージを行い快適な眠りに繋げ、健康の維持ができるよう努力しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>法人理念のもと、年間目標を職員との話し合いで作成し、利用者本位のサービス提供に取り組んでいる。 日常生活で、利用者ができる仕事を実践し「その人らしく過ごす」ことに取り組んでいる。 職員の質の向上を目指して、利用者毎の担当者に日々のケアプランのモニタリングを行い、「プライバシーの確保の研修」では、施設内の実例をもとに話し合いを行う事を検討している。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の必要性をミーティングにてディスカッションしたり「家庭的な雰囲気の中、利用者様と関わりながら「その人らしく」の持つ意味を考え、理念の共有を行っている。玄関に掲示しいつでも見られるようにしている。理念に基づき年間目標を決め、日々の業務の中で一つでも実践できるよう心掛けている。	法人理念と基本方針があり、管理者は職員会議で説明し共有している。また、理念にもとづいた「年間目標」を職員との話し合いで作成し実践している。なお、「年間目標」は、年度末の職員会議で実施状況を評価し次年度につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の小学生との交流等行っていたが、コロナ禍の中、実践出来なかった。感染対策を行い花見などの外出を行った。ミニ通信が定着し地域にミニ通信により近況を報告した。	地域の小学生やボランティアとの交流は、新型コロナウイルス感染防止策で実施していない。今年度は地域住民による送迎で「とんど」に参加し、住民と交流している。事業所と地域がつながれるようにと「ミニ通信」を発行し、事業所の活動を紹介している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェを北部地域の3町共同で行うことになり参加している。認知症の方の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の中であるが、開催をすることができた。施設の状況を伝えたり、事故報告、行事報告を行う。それに伴い助言をいただいている。ボランティア募集の方法など意見をいただきボランティアの協力を得ることができた。	運営推進会議は、家族・地域住民・地域包括支援センターの参加で対面・書面により定期開催している。会議では活発な意見交換を行っている。参加者の意見により、学生ボランティアによる施設内の草取りを実施している。	運営推進会議には、家族代表1名のみが参加して開催している。運営推進会議を家族に知ってもらうために、更に会議議事録を閲覧できる環境を作り、より多くの家族が会議に参加して意見交換することを期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、社協と連携を行い1回/月の会議に出席し情報交換や地域の課題について話し合っている。運営推進会議においては地域包括支援センターから参加を行っていただき意見や助言をいただいている。	地域包括支援センターが運営推進会議に参加した際に意見交換している。地域包括支援センター・地域の福祉施設・社協による「サンサン会議」を毎月開催し、認知症カフェを持ち回りで運営している。会議の「つなげるブック」に施設の出前講座を紹介し講座開催に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>行動制限がないように見守りを行っている。ミーティングで話し合い情報を共有している。</p>	<p>年2回、身体拘束に関する研修を行っている。居室・玄関は施錠せず、利用者は自由に入出りできる。「身体拘束廃止委員会」は3か月に1回、開催し事業所内の状況を職員と話し合い記録している。管理者が「スピーチロック」について研修することもある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員間でお互いに注意喚起できる環境づくりを目指している。研修を行い自己啓発に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>施設内での研修において知識を得るように努めている。成年後見人との連絡調整等職員に伝えている。今後は運営推進会議などで地域包括支援センターより説明して頂くようにしていく。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>施設見学や契約前に家族と面談を行い不安点や疑問点の話をし解決するようにしている。身体状況や日常生活においての施設サービス等説明を行い納得していただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の面会時、必要時は電話連絡し要望を伺っている。必要時は来所され意見を聞いている。毎月、行事や日々の様子をお手紙に書き写真を掲載し報告を行っている。意見箱も設置している。</p>	<p>クリスマス会などの行事の際に直接、家族の意見を聞いていたが、新型コロナウイルス感染防止策のために開催していない。個別に家族に連絡した際に家族の要望を聞いている。家族が参加し、要望を聞くことが出来るイベントなどを企画したいと取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホームミーティングにて話し合いの場を設け、意見や提案を出し業務改善につなげている。2回/年に個別面談を行い意見を聞く機会を設けている。	職員会議や個別面談で職員の意見を聞いている。業務内容の見直しで、職員が食事準備時間に要する時間を短縮している。それにより、職員が介護に費やす時間を確保し、レクリエーションを充実させる案を職員が提案し、園庭で食事する案も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	2回/月の訪問時状況を確認している。必要時は管理者より報告を受け、その都度問題解決に取り組んでいる。必要時は代表者との面談も行われ、いつでも相談できる体制が確保されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修や外部研修参加もフォローしている。外部研修においては伝達講習をし、必要時は施設内で講師を務めたりする。日々のケアから必要時は助言を行う等、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所と連絡を行い、情報交換を行っている。他事業所の出前講座等出席し質の向上に取り組んでいく。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談にて情報を把握し、要望や不安点を聞くようにしている。利用者への声かけを多くし安心して生活していただけるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>情報収集を行いながら情報の確認を行いながら、利用者や家族より要望を聞き、情報を共有している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>意向やニーズを把握し、施設でできる個々に合ったサービスの提供に努めミーティング等の時間を活用して話し合っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>1日を通して、その時の思いや今迄の習慣を尊重し作業に関わりながら、本人を深く知るため対話を多くしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>利用者の1ヶ月の状況を写真を掲載しお便りにして郵送している。必要時は電話にて報告をしたりビデオ通話にて会話ができるようにしている。また、手紙やはがきのやりとりも行っていたり関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>今迄利用されていた物や馴染みのある物を持ってきていただいたりしている。友人の面会も行い、関係が途切れないよう努めている。</p>	<p>知人や家族に出す年賀状を利用者と一緒で作成している。自分の家を見たいという要望に対し、家の近辺をドライブすることもあり、職員が馴染みの関係を継続する取り組みを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の特徴を把握し、席を考慮したり楽しくコミュニケーションが取れるように職員が間を取り持ち良い関係づくりができるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他事業所と連絡したり「不安や相談」があればいつでも相談できることを告げ、いつでも相談できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者、家族に意向を確認しながら職員間で話し合いをする。本人の様子や生活歴などからも情報を得るようにしている。なるべく意向に添えるように努めている。誕生日には食べたいものなど意向を聞き提供している。	日常会話から把握した利用者の思いは「連絡ノート」に記入し共有している。歌が好きな利用者は「日常的に唄えるようにする」ケアプランとして作成し実施している。コロナ禍で家族と面会できない利用者の要望でビデオ通話を実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族様からの聞き取りを行い、一人ひとりの生活歴等情報を把握し、入所後も会話の中から生活上の事などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りや朝のバイタルサインから状態の把握に努め、状態に合わせて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人の意向や家族の面会時、電話連絡の際、意向等の確認を行い、意向を反映するようにしている。介護計画の原案を担当者会議で検討している。ミーティング時にも話し合ったりする。</p>	<p>ケアプラン計画作成者がモニタリング・ケアプランの見直し・ケアプランの作成を行っている。担当者会議では、ケアプランの原案について職員の意見を聞いている。今後は利用者ごとの担当者に日々のモニタリングを行うことを検討している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>状態や実施したことを記録に残し、必要時は職員間の共有ノートに記入している。介護アプリを利用し重要な申し送り事項は色付けをし、わかりやすくし情報の共有に努め、モニタリング等に活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍の中施設内のできる事を行っている。食事メニューも行事食メニューを提供し、施設内での行事を行い季節感や雰囲気を楽しんでいただいている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ感染拡大状況を把握しながら、感染防止を行い地域の行事に参加し、楽しむことができるよう支援している。訪問理美容を利用している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>契約時にかかりつけ医や連携病院を説明するが、希望の病院の有無も聞き希望に沿うようにしている。また、かかりつけ医とは密に連携をとっている。他院やかかりつけ医への受診は看護師が同行し適切な医療が受けられるように努め、入院時は看護師が要約を作成している。</p>	<p>利用開始時に、事業所には協力医がいることを説明し、利用者・家族の要望でかかりつけ医を決めている。利用者は協力医をかかりつけ医とし、月に2回、医師が往診し利用者の状況を把握している。体調不良時は管理者が医師に連絡して対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	バイタルサインや日々様子から健康状態の把握に努めている。異常時は看護・介護職員が連携し主治医の指示を受け必要な処置をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍の中面会はできなかったが、必要物品を届けるなど行い、地域連携室と連絡を取りながら退院支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族、主治医と連携し、本人、家族の思いを共有し、施設で対応可能な支援であれば対応している。「やすらかな看取りのために」と言うパンフレットを用い説明を行っている。	契約時に、重度化した際の要望を聞き、「医療的なケアにより看取りができないことがある」状況を説明している。重度化した際には、医師が家族に説明し、今後の支援方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の適切な対応ができるよう、連絡方法や対処方法を定期の研修会で行い対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	2回/年の避難訓練や災害時の対策や避難について研修会で行っている。災害時はいつでも避難ができるよう一人ひとりの必要物品を用意している。特に推進会議委員の連絡網を作成し協力を得られるように体制づくりを行っている。	年2回の避難訓練は、1回は消防署立ち合いで、地域住民も参加し実施する。1回は、夜間を想定した訓練で、どちらの訓練にも利用者が参加し避難経路の確認を行う。利用者毎の避難方法を作成している。地域住民との連絡網を作成し、協力体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	丁寧な声かけを行い、精神的に苦痛なく過ごせるような声かけや態度に注意するよう心がけている。	プライバシーの確保・人格の尊重に関する研修を管理者が講師となり実施している。プライバシーの確保について必要があれば、現場で注意喚起し指導している。今後は、実例をもとにして話し合う研修を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な限り本人が決定できるよう一人ひとりにあった声かけを行うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の生活の中で本人のペースをくずさないよう希望や体調に合わせ、本人の意向を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者ができる所は本人が行っている。外出時や受診時など、本人に洋服の中から選んでいただいたり、理美容において髪型等の希望があれば伝えて、本人の好みに合わせるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前にメニューを説明し、トロミが必要な人等、一人ひとりに合わせて食べやすく工夫している。季節を感じるメニューも考慮している。おやつ作りは一緒に行っている。	管理栄養士が作成した食事を提供するが、ごはん・お汁・昼食の1品は手作りで提供している。菜園で収穫した野菜を使うことがある。誕生日には利用者の希望する食事とし、利用者の要望でカレーランチやちらし寿司も提供する。たこ焼きなどのおやつを一緒に作って楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分量の記録を行い、把握に努めている。食欲低下時は栄養剤や好みものを家族より提供していただいたり、必要エネルギーや水分が摂取できるよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>歯科訪問診療や歯科衛生士による指導を受けている。毎食後に口腔ケアを行い必要時は職員が磨き直すなどの支援も行っている。夜間は義歯洗浄剤の使用も行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄記録表でパターンを把握し、声かけや誘導を行いながら一人ひとりにあった支援を行い残存機能の維持に努めている。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導している。今後は、利用者に応じたパットを夜間に使用し、利用者の睡眠を確保することを検討している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日々排泄状況を確認し、食事摂取量や水分量の把握に努め、スムーズな排泄ができるよう体操を行ったり主治医と看護師が連絡を取り排便コントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時は体調に合わせて入浴時間を調整している。冬至の柚子湯、入浴剤の種類を変えて楽しめるよう支援している。入浴中はゆっくりと話ができるよう考慮している。</p>	<p>機械浴で、週2回の入浴を行っている。利用者がゆったりとしている時や立ち上がって移動するなどの機会に「入浴の声かけ」を行うなど工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>日々の体調に合わせて居室で休 息をとっている。夜間はフットマ ッサージを行い、季節に合わせて 室温、衣類、寝具を考え、安眠 できるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>定期的に服用している薬は職員 が確認できる場所に配置し、変 更があると共有ノートに記入し 、申し送りにて伝達している。ま た各勤務者が内服確認を行い症 状の変化の確認に努めている。内 服薬の詳細はアプリにも入力し ているためいつでも閲覧できる ようにしている</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>洗濯物をたたんだり、食器を拭 く、新聞を折ったりなどの作業 において、やりがいや楽しみにな っている事を継続している。季 節には庭に出て野菜等を植え 「昔取った杵柄」を生かしてい る。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>コロナ禍の中、感染対策を行い 人込みを回避した場所に出かけ る、家族より外出、外泊の希望 があればかかりつけ医と連携し 希望に添えるよう努めている。</p>	<p>天気の良い日には、園庭の花を 見たり、ベンチで日向ぼっこを している。コロナ禍が改善され たら、利用者が好きなおやつを 買いに行くことを検討している。 春は利用者全員で花見に行き、 年に2回、利用者毎の個別外出 を実施している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>金銭の管理は行っていないが、 買い物ゲーム等でお金の価値を 楽しんでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ハガキや切手を家族が購入し、自由に手紙を書いてもらっている。毎年本人が年賀状を出したい人に書いてもらっている。ビデオ電話等、家族と一緒に会話を楽しむことができるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節に応じて利用者と一緒に作品や生け花を行い作品を展示している。電球の色は柔らかい色を使用したり、ホールは対面キッチンとなっているため、食事の支度等感じる事ができる。</p>	<p>適切な温度・湿度、特に換気には十分に配慮して快適な環境を整えている。利用者の作品や季節の飾りを掲示し、庭の花を飾って季節感を演出している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>好きな場所でくつろげるよう、ソファや椅子を置いている。ソファに座り利用者同士テレビをみたりし会話も楽しめる。和室もあり洗濯物たたみ等利用者、職員と一緒にできるような工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人や家族と相談し、使い慣れた物や馴染の物を居室に置くなど落ち着いた生活ができるように工夫している。</p>	<p>今まで使用していた馴染みのダンスや鏡台を居室に持ち込み、アルバムや家族の写真や日記帳など、利用者が大事にしている物を飾って居心地のよい空間を工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリーであり、導線には障害物を置かないよう配慮している。見守りや付き添いを行い出来る事の維持に努めている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ル
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームジュンベリーの家

作成日 令和5年1月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議へのご家族様の出席が少ないため意見交換が不十分である。	運営推進会議を知っていただき家族様の出席が増え、意見交換ができる。	運営推進会議録を家族様に配布し閲覧の機会を多くし、意義を知っていただく。	1年
2	10	モニタリングを計画担当が行っているがサービスをを行った後の経過や観察において不十分である。	担当者がモニタリングを行い一人ひとりを深く知ることができる。	担当者がモニタリングを行う。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。